

子どもの読書活動の普及や啓発を図る事業

# まったり読書！ウィークエンド

1, 趣 旨

異年齢の子どもたちに本の持つ魅力やおもしろさを認識させるとともに、読書習慣を身に付けさせ、且つ創造性を育てる。

2, 期 日

平成26年11月8日(土)～9日(日) 1泊2日

3, 主 催・実施場所

北海道立青少年体験活動支援施設ネイパル森

4, 協 力

八雲町立八雲図書館

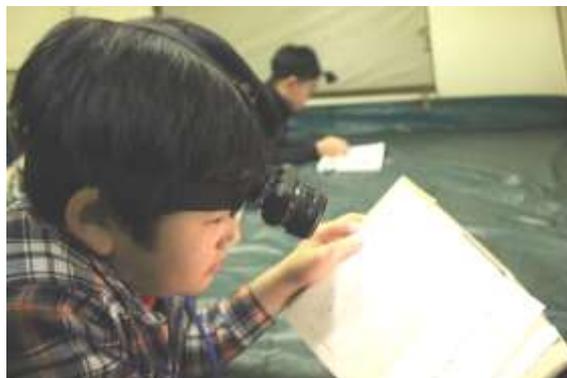
5, 参加対象

小学校4年生～6年生 50人

6, 参加実績

39名

ボランティア 男4 女3



	4年	5年	6年	合計
男子	6	4	1	11
女子	10	9	9	28
合計	16	13	10	39

7, プログラム内容

	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	
11月8日(土)	受付開始9:30				受付	開会式	星のお話	星食	バス移動	図書館ツアー-八雲図書館司書体験&星の本・自分の好きな本を探そう!	バス移動	休憩	夕食	星空観察会	まったり読書・入浴		就寝準備	就寝
11月9日(日)	起床	朝の集い	朝食	活動準備	さわやか読書	星砂で星座を作ろう!	開会式	解散12:30~										

\*星空観察会は、天候によりプログラムが変更する場合があります。ご了承ください。

8, 活動の様子

一日目、開会式では阿部所長から「星をテーマに勉強や観察などを行う。ゆったり、まったりと本を読んでもらえるように色々な部屋を用意した。図書館でも星の話や司書体験、明日は、星砂での工作もあるので2日間元気よく、仲良く読書に親しんで欲しい。」と挨拶があった。その後は星のお話タイムとして、星座は誰が作ったのか、自分の誕生日の星座はいつ夜空にあがるのかを本を使いながら紹介した。そして、星はどのように生まれたのかを図鑑と物語『星と月が生まれた夜』の読み聞かせを行い、本の持つ面白さを紹介した。次に、お互いを知るために、班毎に自己紹介をし、「ジップザップ」と



いったゲームで仲間同士の交流を図った。はじめは緊張気味だった参加者も、最後には打ち解けた表情になっていた。仲良くなったところで、これから本を読む館内の部屋を見て回った。部屋にはそれぞれ「カシオペア」「北斗七星」といった星の名前が付いている。ごろんと寝転びながら読める部屋や、BGMが流れている部屋、秘密基地としてテントが置かれている部屋など、趣向を凝らしたつくりとなっていて参加者も興味津々の様子であった。その後、ネイパルバスに乗って、八雲図書館に向け出発。図書館では、星に関するブックトークや司書体験、図書館裏側ツアーなどをおこなった。どの参加者も星に関する本や興味のある本を借りて、満足げな様子であった。早速、本を読み始める子どももいたり、本の世界に浸っていた。ネイパルに帰ってきてからは、星空観察会。残念ながら雲がかかり、外の星を見ることはできなかったが、室内で秋・冬に見ることができる星座の探し方や星座にまつわる話を全員で聞いた。参加者からは「それぞれの星座には神話や教訓があるのだなと思った。もっと調べてみたい。」

「今度は、自分の目で見てみたい。」との声があがった。入浴後は、部屋でのまったり読書。部屋の中にはミニプラネタリウムが体験できる「星の部屋」や「占いの館」などもあり、楽しみも倍増。本を片手にそれぞれ好きな星座の部屋へ行き、時間まで読書にふけた。

2日目は、起きてそうそうに「さわやか読書」を実施。昨日に引き続き、各自思い思いに好きな部屋で読書に浸った。その後、思い出つくりとして、星砂で星座を作る工作を行った。それぞれ好きなパターンの星座を選んで、作り上げていった。

この2日間を通し、参加者からは、「本はいつでも持ち運べて、人を楽しい世界に連れていってくれるなぁと思いました。」「いつも家では本を読まないから39人の人とボランティアの人たちとで、本を読めてよかった。」との声があった。閉会式を終えて、どの参加者も満足げに帰っていた。

## 9、参加者の声

(以下アンケートより抜粋)

- ・本はいつでも持ち運べて、人を楽しい世界に連れていってくれるなぁと思いました。
- ・色々なジャンル、作者の本を読むことで色々な表現、色々な感情があることを「発見」しました。
- ・いつも家では本を読まないから39人の人とボランティアの人たちと本を読めてよかった。

## 10、事業の分析と考察

今回の事業の主旨は「異年齢の子どもたちに本の持つ魅力やおもしろさを認識させるとともに、読書習慣を身に付けさせ、且つ創造性を育てる。」であった。野外活動と関連したテーマを設定し、プログラムを作成することで、参加者は見通しを持って活動ができ、それが意欲につながるのではないかと考えた。そのため、今回の事業では「星」をテーマとし、プログラム全体を構成していった。はじめに、「星のお話」として、身近な自分の誕生日星座等の話を紹介し、星や星座への興味関心を高めるとともに、星の誕生について図鑑での科学的な話と物語『星と月が生まれた夜』の読み聞かせを行うことで、



いろいろな種類の本があることを紹介した。その結果、八雲図書館に行った際、司書体験として本の貸し出しを行ったが、どの参加者も意欲的に星の本や、興味のある本を借りている姿が見られた。次に、星空観察会を行う予定であったが、曇りだったため荒天プログラムに変更し、室内での活動となった。秋・冬の星座の探し方や、それらの星座に伝わる神話を紹介した。参加者からは「星はとても綺麗だから、晴れた日に星を見ようと思った。」「それぞれの星座には神話や教訓があるのだなと思った。もっと色々調べてみたい。」といった声があがった。このことから、「もっと知りたい。」「確かめてみたい。」という参加者の探求心を高めることができたのではないかと考える。

課題として、今回の事業では「読書がしやすい環境」を提供することで、より参加者が読書に親しんでもらえるのではないかと考え、宿泊棟1階に寝転べる部屋や、BGMが流れる部屋、秘密基地のようなテントがある部屋などを用意した。結果として1日目は、参加者全員が真剣に読書に向き合う雰囲気ではなかった。その原因としては、読書プログラムの時間帯に平行して入浴時間を取っていたことと、指導支援不足であると感じる。2日目の朝の読書タイムでは、活動に入る前に「読書」についての心構えを参加者に伝えた。その結果、1時間という時間ではあったが、どの参加者も真剣に本に向き合う姿が見られた。子ども達たちの読書時間の確保について、今回の反省を活かして、指導内容（空間的配慮、時間的配慮、指導内容）を来年度、工夫・改善する。

## 11、成果と課題

### ○成果

- ・「星」をテーマにしてプログラム全体を構成した。その結果、参加者は見通しを持って活動ができた。このことが参加者の活動意欲につながった。

### ▼課題

- ・集中して読書に親しむことができる空間づくりや読書時間の確保